



城東図書館 2025年4月18日～5月14日実施

まちのひと 山本巧次さんの紹介本リスト

作家

黒い白鳥

鮎川 哲也/著

東京創元社

鉄道ミステリ、と言えはまず思い浮かぶのは、時刻表トリックの大家、西村京太郎氏でしょう。その時刻表トリックを使ったアリバイ工作、という点において、有名なのは松本清張氏の「点と線」ですが、最も初期にこれを使ったものとしては、本格推理小説の代表、鮎川哲也氏の作品が挙げられます。その中で最も秀逸と言われるのが本作です。東北本線の沿線で見つかった死体の謎を追い、関西から北陸、九州へ。六十数年前の鉄道の情景を思い浮かべつつ、頭の体操を楽しめます。

ウォッチメイカー

ジェフリー・ディーヴァー/著

文藝春秋

どんでん返しの鬼才、J・ディーヴァーは私が最も好きなミステリ作家です。彼の生み出した名探偵で、事故で四肢麻痺となった鑑識の権威、リンカーン・ライムが活躍するシリーズの代表作です。残忍な手口で殺人を続ける犯人は、現場に必ずアンティーク時計を残し、自らをウォッチメイカーと称します。犯人はライムに匹敵するほど有能で緻密、かつ容赦ありません。これを追い詰めるライムたち捜査官との、息詰まる駆け引き。これでもかと畳みかけるどんでん返しの連続に、読む側も翻弄されます。

十角館の殺人

綾辻 行人/著

講談社

孤島に建てられた十角形の変った建物に宿泊した学生たちの間で起こる、連続殺人事件。外部から入り込めない空間内が舞台のミステリを「クローズド・サークルもの」と呼びますが、その代表作の一つです。古典の本格ミステリは高度成長期に、社会情勢が動機に反映された「社会派ミステリ」に取って代わられますが、1987年発表の本作は見事に旧来の本格ミステリに回帰し、「新本格」と呼ばれるジャンルを確立しました。誰が犯人で、どんなトリックを使ったか。頭を悩ますこと請け合いです。

極楽征夷大將軍

垣根 涼介/著

文藝春秋

室町幕府を開いた足利尊氏。歴史の授業で必ず習う人物です。戦前は、後醍醐天皇に反逆したということで極悪人扱いされてきました。教科書で読む限りは、幕府の祖として源頼朝や徳川家康と同様の偉人、であるはずで、最近の漫画作品でも恐るべき異能の男として描かれています。ところが実はとんでもないヘタレで、実務能力の高い弟の直義や重臣の高師直がいなければ何もできなかった、というお話。案外こんな奴の方が、トップには向いていたのかも、という目から鱗の作品です。(第169回直木賞受賞作)

ギリシア人の物語

塩野 七生/著

新潮社

古代ローマの歴史を描いた大著で知られる著者の、「ローマ以前」を解き明かす作品です。ローマの「精神的故郷」であるギリシアの歴史は、都市国家の覇権争い、アテネとスパルタの二大勢力の対立、ペルシアの軍事侵攻などなど、波乱万丈です。海上交通を押さえ、経済覇権を狙うアテネと、ストイックな軍事国家のスパルタとの対比も面白い。本作は都市国家の成立からアレクサンドロス大王の登場に至る数世紀を、物語風に記しています。西欧世界の原点を知ることができる、資料価値も高いものです。

事故の鉄道史

佐々木 富泰・網谷 りょういち/著

日本経済評論社

事故とは、自然災害などを除けば、大抵ヒューマンエラーによって起きるものです。鉄道は1872年の開業以来、数々の事故を起こしてきました。その都度、対策が施された結果、現在の日本の鉄道は、世界トップクラスの安全度を誇ります。それでも僅かな誤りから、福知山線事故のようなことが発生するのです。本作では、鉄道草創期から戦時中に至る間の12件の事故について、顛末と原因、対策を記しています。思い込みや状況軽視、取り扱いの単純ミス、手順の逸脱など、鉄道以外の現場でも教訓になりうると思います。

百貨店の戦後史 全国老舗デパートの黄金時代

夫馬 信一/著 国書刊行会

かつて全国のある程度の都市には必ず百貨店があり、高度成長期の消費を支えてきました。しかし近年はご承知の通り、消費動向の変化により、地方都市の百貨店が次々に廃業しています。本作は、12の百貨店について、閉店に至るまでの盛衰を記したものです。(関西では、和歌山の丸正が挙げられています) 子供時代、わくわくしながら出かけた百貨店への郷愁とともに、なぜ消費者を繋ぎ止められなかったのか、なぜ駄目になってしまったのかを考察してみるのも一興でしょう。

阪堺電車 177号の追憶

山本 巧次/著 早川書房

勝手ながら最後に拙著を一作、挙げさせていただきます。大阪市南部から堺市にかけて路線を持つ阪堺電車。そこで昭和八年から八十余を走り続けた177号電車とその乗客、乗務員にまつわる五編の連作短編で、戦前から終戦前後、高度成長期、バブル期、平成末期と電車の歩んだ時代を追って行く趣向です。177号という番号の車両は実在しませんが、このモ161形電車は現在も残っており、正月の初詣輸送やイベントの際、運行されています。本作を手にも、浪速の人情劇と共に阪堺電車の小旅行など、楽しんでいただければ幸いです。

表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)

転載等の際は “大阪市立城東図書館「まちのひとと文庫」推薦文”との表記を入れてください

大阪市立城東図書館
大阪市城東区中央 3-5-45 06-6933-0350
<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>